

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4492200011		
法人名	医療法人久寿会		
事業所名	グループホームすずらん		
所在地	大分県速見郡日出町大字藤原1691番地1		
自己評価作成日	平成25年2月14日	評価結果市町村受理日	平成25年4月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kajokensaku.jp/44/index.php?action_kouhou_sref_detail_orizinal_index=true&amp;ijyosuu04=4492200011-008Prf04=444Ybmdo=2010&amp;Version04=022">http://www.kajokensaku.jp/44/index.php?action_kouhou_sref_detail_orizinal_index=true&amp;ijyosuu04=4492200011-008Prf04=444Ybmdo=2010&amp;Version04=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構		
所在地	大分県大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府壱番館 1F		
訪問調査日	平成25年3月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者様の心身の状況を踏まえ、利用者様の認知症の症状の進行を緩和し、安心して日常生活を送ることができるよう職員のチームワークを重視しながら援助しています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所は、法人の理念に基づいて方針を定め、利用者が、住み慣れた地域で、共に寄り添いながら暮らし続けられるように、との思いで日々の支援を行っています。職員は「笑顔」で接することを基本に、利用者一人ひとりの個性を尊重し、自尊心を傷つけない対応に心掛けています。日々のケアの実践から得た「気付き」を、職員自ら吟味しながら事業所全体の共有へと高めて行き、理念の実現に向けて一丸となって取り組む姿勢が伺えました。また、利用者の健康管理や医療面においても、母体である病院との連携体制も整い、利用者、家族の安心に繋がっています。また、事業所は地域交流を重視しており、運営推進会議を通じて、認知症ケア推進に取り組んでおり、相談を受けることで、事業所の持つ知識を地域貢献に繋げています。地域行事の参加、事業所の盆踊り大会に地域の方を招いたり、利用者が地域の中で社会参加できるよう支援をしています。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員及び外来者に見やすい理念の掲示を行っている。また、月1回行われているミーティングの際、職員で基本理念の読み合わせを行っている	理念は月1回の会議で、全職員で唱和し、共有しており、更にホーム独自の理念及び明確な目標の構築に向け話し合われています。地域に根差した温かみのある介護を目指すと共に、家庭的なホーム形成は、理念の実践に繋がったものです。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通して地域との交流を行っている。また、ホームを含む法人の盆踊りに地域の方を招いたり、お接待への参加などして交流している	地域の一員として、地域行事や清掃活動等に職員と共に参加しています。ホームの夏祭りに近隣の方の参加を呼び掛けたり、地域住民の相談や職員の専門性を活かした認知症ケア啓発を行う等、住民との関わりを大切にしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際、参加していただいた地域住民の方へ、認知症の症状や認知症の方への関わり方等の説明を行ない、少しでも理解していただけるよう取り組んでいる		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員・自治会長・老人会長・公民館長など地域の関係者に参加していただき、ホームの意義や目的を伝えて、参加していただいた方からの意見を活かせるように取り組んでいる	運営推進会議は、各分野の委員で構成され、定期的開催されています。利用者やサービス状況の報告だけでなく、参加者から活発な意見交換が出来るように努めており、職員には会議の内容を伝え、サービスの向上に生かしています。	運営推進会議には職員も交替で参加し、関心を高めると共に、記録に残し、全職員で回覧をし共有すること、出された意見や改善点も全職員で取り組み、結果を次回の推進会議に提供することを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいます	運営の手続きや、困難なケースについてはその都度相談を行っている	日頃より市に対して、ホームの状況に関する情報発信を行っており、運営推進会議以外にも、相談や市が持つノウハウを教える関係作りを努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけずに、利用者様が精神的に落ち着かずホールから出る際は職員がさりげなく付き添っている	身体拘束の事例はないが、行動の抑制や職員の声掛けが不適切にならないように、毎月の会議で話し合い、意識付けに努めています。外部、内部研修に積極的に参加しており、報告会で他の職員への周知を行っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時に全身の観察や、怪我の有無の確認を行い、変化があれば職員間で話し合い原因を明らかにし、経過を確認している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	随時、家族や関係者と制度についてや必要性を話し合いながら支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は項目の確認を行ない、理解・納得ができるように説明しその後も質問などに答え対応している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族とは面会時や電話で意見や要望について話し、家族からの意見や要望をもとに、運営や介護方法の改善を行っている	家族が面会に来られた時や「家族会」で集まった時に、利用者、家族の思いや意見、要望が聞けるようにしています。また、遠方で面会に来れない家族には、月1回請求書と共に手紙(日常の様子)を送り、家族とコミュニケーションを取る中で運営に反映される案が出された時は、早急に対応をしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する職員の意見・要望を会議の中や日常の業務の際に、随時話せる機会を設けている	職員の意見について、日々の申し送りや毎月のミーティングの機会を使って聞き取りながら、運営に活かしています。また、年1回の職員の自己評価を行い、各自が向上心を持って働き、やりがいに繋がっています。	管理者は職員からの意見、要望が出しやすい雰囲気作りに努めています。更に自己評価シートを活用しながら、職員の意向や要望の把握に努めており、今後も継続されることを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況を定期的に振り返り、自己評価シートを利用しながら努力や実績を確認している。また、勤務変更などの必要があれば柔軟に対応している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加や、内部での研修を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議への参加や、外部研修への参加などを通じ、交流の機会を設けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始時には、常に関わりを持ち傾聴し、関わりを多くもち、傾聴する事で安心できるように支援している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始時には、常に関わりを持ち傾聴し、安心していただける関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始時に、今まで関わってきた関係事業所へ情報提供を頂き、本人と家族等の傾聴の中での確認を行ない、当事業所での支援方法の決定につなげている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様に子育ての話を聴いたり、過去の生活の知恵や経験を教えてもらい、お互いに支えあう関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の要望を大事に、こたえられるように検討しながら常に話し合い、家族と職員が同じ意向で利用者様を支えていく関係作り心がけている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的に家族の面会が行われるよう、面会に来られた時に声かけし、自宅に外出したり、馴染みの方と外出できるよう支援している	地域で馴染みの場所があり散歩に行ったり、近所の店での買い物等、ホーム外に出かける機会を日常的に作っています。家族の協力で自宅や、テニスコート(趣味)に連れて行く等、馴染みの関係が継続できる支援を行っています。	家族が遠方の方には、なかなか、支援に繋がらない場合もあり、お手紙や年賀状を出す等、関係の継続に繋げるよう期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いを思いやられるよう、利用者様間の関わりに側面的に支援し、孤立しないように心がけている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期に入院するようになっても、様子伺いに行き経過を追っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様に関して、日々の変化が生じた時(希望や意向等)には、その都度申し送りに記録し、全員で共有している また、カンファレンス時に検討し、共有に取り組んでいる	利用者の行動や表情を観察し、思いや意向の把握に努めており、確認した利用者に関する事項を記録にまとめ、申し送りやミーティングを通して職員間で共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報やアセスメントシート等を活用し把握を行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方や心身状態については、経過記録表や業務日誌、申し送りに記録し把握に努めている。心身状態について受診を行った際は受診記録、申し送りに記録している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回開催する全員参加のミーティングの際、利用者様の把握を行ない、介護計画書の見直しを行っている	利用者及び家族、関係者(医師、担当職員)の意見やアイデアを反映して介護計画が作成されています。利用者の状態の変化等の把握を行い、必要に応じて介護計画の変更を行っています。	毎月のミーティングで職員が意見を出し合い介護計画を作成していますが、作成後の担当利用者だけでなく、全員の介護計画の把握と周知徹底に一層の期待が持たれます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルを作成し、日々の状態の把握に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の意向を聴き、できる限り対応できるように支援している。支援方法等で変更があった場合は申し送りに記録し職員全員で共有している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族との協働が主であるが、本人の力が発揮できるよう努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望をもとに、協力病院やそれ以外の専門医と連携を取りながら、適切な医療が受けられるよう支援している	すべての利用者の方がもともとのかかりつけ医となっています。他科受診の際は家族とともに職員も同行し、普段の様子や変化を伝えるようにしています。職員が代行した時は、その都度家族に詳しくお伝えしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的な観察の中で、変化を発見した場合は職場の看護師に相談し、主治医に報告や受診ができるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時やその他日常においても、病院関係者と連絡を取り、情報交換を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明を行っている 必要に応じて重度化・終末期における対応指針をもとに、本人や家族への説明も行っている	家族の方は重度化や急変時も法人内の医療機関があることで安心されています。本人、家族の意向を踏まえ医師、職員が連携を密にとり安心した最期を迎えられるよう支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時には初期対応の実践を行っているが、職員間での実践力はばらつきがある		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事前に避難誘導のシミュレーションを行い、夜間における想定も取り入れながら年に2回の避難訓練を実施している 今後、運営推進会議を通し地域の方へも参加や協力を依頼したい	年2回消防署の協力を得て、避難訓練を実施しています。災害の発生に備え備蓄や物品もそろえています。	夜間を想定した避難訓練も行ってはいますが、なお一層地域の方や、消防団などの協力体制を整え訓練が行えることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の取り扱いは分かりやすい場所へ掲示し、必要な際は適切な助言、指導を行っている また、オムツの取り扱いに注意しながら日常の業務に取り組むよう努めて入る	職員の言葉かけやさりげない配慮で一人ひとりの誇りや、プライドが守られています。また職員同士や管理者からもお互いに注意しあえるコミュニケーションが取れています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で会話の内容や表現に注意しながら希望を把握するよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の気持ちを大切に、できる限り自宅での生活スタイルに近いような対応に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	いつも清潔な服装、好みの服が着用できるように支援している また、入浴時の服選びは本人と準備するよう心がけている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	下準備の手伝いや片付けなどにおいて、利用者様の可能な範囲で協力いただき、職員と一緒にやっている	献立は法人内の栄養士さんが考えますが、調理は3食ともホーム内でしているため、出来ることを一緒にしたり、おやつ作りを楽しんでいます。季節に応じた行事食も楽しみの一つになっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせた、摂取しやすい食事の形態を把握し、実施している また、食事量や内容の把握に努め、栄養のバランスが取れた食事を提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに合わせた口腔ケアの援助を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄リズムを把握し、トイレでの排泄が行なえるように声かけや誘導を行なっている	昼間は自分でトイレに行かれる方も多い中、排泄チェック表を活用し、一人ひとりのパターンを把握し、トイレ誘導を行い自立に向けた支援を行っています。夜間もオムツに頼るのではなく、音や気配を感じトイレに誘導しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多くとっていただけるよう、おやつ時に嗜好品を取り入れたり、レクリエーションに身体を動かすものを取り入れたりしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時の服の着替えを利用者様と職員と一緒にいき、利用者様の好みの服を選んでもらったり、希望や体調を確認しながら、1日おきの頻度で入浴支援を行なっている	毎日入る方もおり、一人ひとりの希望に沿った入浴支援が来ています。入浴を拒否される方にも声かけの職員を変えたり、気分転換の声かけなど工夫をしながら支援を行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも安心して静養ができるように、ソファを使用しつるいでもらっている。体調を見ながら、ベッドに横になってもらったり声かけを行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局より内服薬の情報提供をもらい、個人カルテにつけて、常に職員が薬の確認を行なえるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、食器拭き、色ぬり、レクリエーション等、一人ひとりの力に応じての役割や楽しみごとを日常に取り入れている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人の希望に合わせて職員や家族が同行し外出している。また、年間の行事の中でも外出する機会を設け、季節感を感じていただけるように取り組んだ	順番を決め散歩や買い物に出かけています。受診の帰りに自宅を見に行ったり、季節に合わせて花見や、地域のお雛祭りなどにも積極的に出かけています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人がお金を持っている方については、ご本人と家族、職員が十分に話し合い少額の金額を所持している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される利用者様には、いつでも電話が行なえるように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられるような物を共有の空間に設置し、くつろぎやすい空間となるように努めている	食卓のテーブルには季節の花が飾られ、リビングに対面キッチンを設け、楽しく話しながら一緒に調理をしたり、テレビを見たり、長椅子で横になったりとそれぞれに居心地よく過しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間でのテーブルで気の合う仲間といつでも話せるように、座席を配置している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具やご本人が大切にされてきたものや使い慣れたものを持ち込み、安心して過ごせるような環境作り心がけている	テレビやカラオケ、冷蔵庫、鉢花など思い思いの馴染みのものを持ち込み、その人らしい暮らしの環境になっています。また部屋に昔自分が編んだ服をかけたたり、家族の写真を飾ったり居心地の良い空間となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の部屋が分かるように、花の名前や鳥の名前をつけ、ご本人の名前も付けている。トイレの場所がわかるような掲示を行っている		